にじ
虹
ニュースレター No.90 July 2019
MICかながわ

特定非営利活動法人
多言語社会リソースかながわ

〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター内
Tel：045－314-3368
Fax：045－342-7918
e-mail : mickanagawa@network.email.ne.jp
URL : http://mickanagawa.web.fc2.com/

ニュースレターは6月・9月・12月・3月発行の季刊紙です。
今回は事務局の事情により、7月発行となりました。

MICかながわの2018年度を振り返る

MICかながわが医療通訳派遣を始めて16年が過ぎましたが、2018年度は多忙な1年でした。増加の一途をたどる医療通訳と一般通訳の派遣依頼に対応するため、コーディネーターブースと事務局の事務量はどんどん膨らみました。コーディネーターをはじめ登録してくださっている通訳スタッフのかたがたのご協力に対し感謝の念に堪えません。

【医療通訳派遣システム変更点】

2018年度、神奈川県の医療通訳派遣システム（以下、県事業）で大きく変わった点が2点あります。

まず一つ目は、県事業協定医療機関の再編成です。2017年度までは県事業の医療通訳派遣とMICかながわ独自の契約による医療通訳派遣とで事業が分かれていましたが、2018年度からは神奈川県下のMICかながわ協定医療機関は県事業に組み込まれました。それにより、県事業協定医療機関は前年度35医療機関から69医療機関へと大幅に増加することになりました。

2017年度		2018年度
神奈川県医療通訳派遣システム事業 （県事業）　35医療機関	→	神奈川県医療通訳派遣システム事業 （県事業）　69医療機関
MICかながわ医療通訳派遣事業 （MIC事業）　38医療機関 MICと独自に契約した医療機関	→	MICかながわ医療通訳派遣事業 （MIC事業）　10医療機関 定例通訳派遣・県外医療機関・試行派遣

二つ目の変更点は、医療通訳スタッフに対する報償金（通訳料）です。2017年度までは、3時間につき3,000円（税別、交通費込み）でした。3時間を超えると、次の3時間までさらに3,000円（税別、交通費込み）が加算されていました。2018年度からは、最初の2時間につき3,000円（税別、交通費込み）で、それを超えると1時間毎に1,000円（税別）が加算されることになりました。通訳料が変わらず単位が3時間から2時間になったので、この料金改定は医療通訳スタッフにとってはよいことでした。ボランティア活動とはいうものの専門性の高い通訳分野であるので、報酬の金額についてはずっと課題になっていたのです。

以下の表の金額は税抜きです。

	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間
2017年度まで	¥3,000			＋¥3,000		
2018年度から	¥3,000		＋¥1,000	＋¥1,000	＋¥1,000	＋¥1,000

一方で最初の枠が3時間から2時間になったため、病院側は2時間に収めようと通訳開始時刻・終了時刻の管理について厳しくなってきている様子が見えてきました。開始時刻をどこからにするか、終了時刻をどこにするか、病院側とあらためてルールを確認することが必要になってきました。明文化されてはいるものの、医療通訳スタッフの善意に委ねられてしまうような状況も実際起こっており、現場での活動に混乱を招いています。

【医療通訳スタッフ・一般通訳協力者　人材の育成】

この数年の課題であったタガログ語とベトナム語については多言語支援センターかながわでの派遣通訳スタッフ雇用の効果が出ています。2018年度、タガログ語は、『通訳見つからず』でのキャンセル率は1割弱に留まりました。ベトナム語は、3割強でした。ベトナム語の医療通訳スタッフの層を厚くすることが今後さらに望まれます。

第1希望であるタガログ語、ベトナム語では通訳は見つからなかったけれど、第2希望の言語（ほとんど英語）を代用して通訳が行われるというケースがあります。英語通訳スタッフは、患者さんの第2外国語、第3外国語としての英語に対応するというケースも多いのです。英語が派遣実績件数第1位になっている事情がここにあります。

一般通訳に目を移すと、数年前は通訳を依頼してくる高校は「外国籍の生徒を多く受け入れている学校」にかなり限定されていました。最近では数多くの高校から依頼が来ます。5年前、2013年度は一般通訳の依頼は211件でした。2018年度は387件と1.8倍に増えています。その中で注目したいのは、2013年度県立高校112件、県立特別支援学校（養護学校）26件だったものが、2018年度では県立高校181件、県立特別支援学校86件と特別支援学校への通訳派遣が多くなってきている点です。これは進学が増えているという進路の選択肢が増えたというあらわれでしょうか。

医療通訳県事業	2018年度
1.英語	2,265
2.中国語	2,169
3.スペイン語	1,404

	2013年度	2018年度
一般通訳全体	211	387
県立高校	112	181
県立特別支援学校	26	86

【MICかながわ経営基盤の強化】

MICの財政自体が寄付や賞受賞の副賞賞金に頼っている部分が多いのは事実です。6月1日（土）の総会でも、このような形は健全な運営とは言えないという話も出ました。団体独自の事業で収入を得ようとすれば事務量が増え、その分人手が必要となります。人手を増やすには人件費が必要です。

会員の数を増やし、会費の増収を目指すことが急務になっています。何のために会員になるのか。県事業に登録している医療通訳スタッフの方たちに会員になってもらうにはどうしたらよいか。総会の中でも活発な議論がなされました。何よりも『MICかながわという団体が活動を続けていくことができるよう会員として応援していただきたい』ということを、折に触れ発信していくことが大切であると再確認できた今年度の総会でした。

ある医療通訳スタッフの日記 Vol.14

医療通訳は、患者さんと医療者の間に存在することばの壁をなくすためにお手伝いをしています。命にかかわる通訳をすることも多く、とてもたいへんですが、皆、やりがいを感じて活動しています。どのような活動なのか、医療通訳スタッフからのエピソードを通してご紹介しましょう。

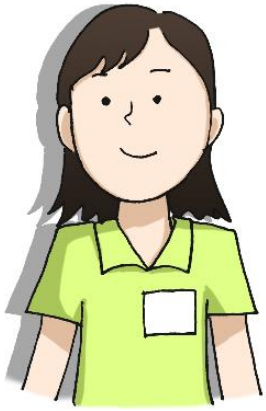
2018年登録　Kさん

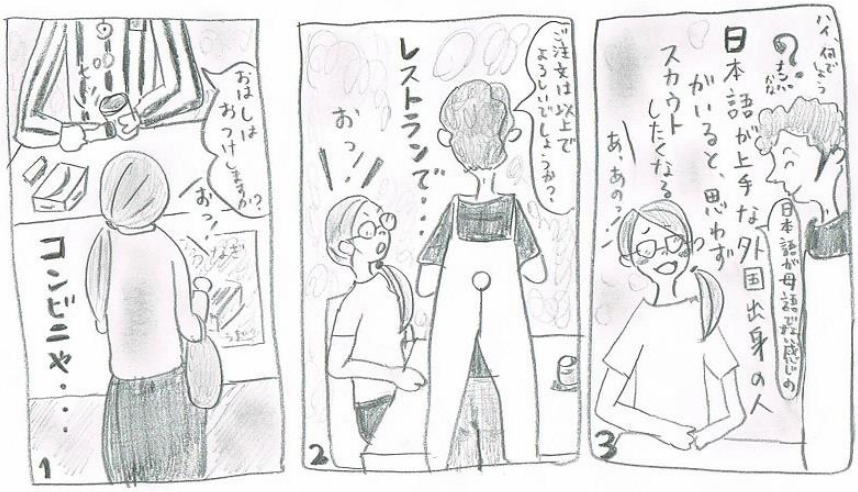
ある高齢の男性患者さんが、頭に腫瘍があることが判明し、腫瘍の一部を切除し検査したところ、「悪性リンパ腫」と診断されました。この方は、持病の糖尿病もありました。

毎回、主治医の先生が患者さんの病状についてわかりやすい解説、レントゲン写真、治療の方針などの「面談票」を作成し、関係者にそれを用いてわかりやすく説明してくれました。悪性リンパ腫は血液のがんで、主にリンパ球が腫瘍化した物であること。通常はリンパ節が腫れることが多いが、今回のように頭の中にできることもあること。治療しても回復の見込みは低いこと。必要な様々な検査、化学療法、抗がん剤の副作用、放射線療法などの説明。化学療法の効果で腫瘍が小さくなり、生存期間が延びたことなどの通訳をしてきました。

このような深刻な病気の通訳は、通訳している自分も衝撃を受けましたが、患者さんとご家族はもっとつらい気持ちになったと思います。また、病気の事だけではなく、長期入院となると言葉や生活費、高額な治療費などの心配があり、治療を中断して「家に帰りたい」と言い出したこともありました。でも、病院と、この方が勤めている会社が親身になって治療に集中できるよう適切なアドバイスと多くのサポートをしてくれました。

患者さん自身が正しく病気を理解することで、辛く長い治療への不安や負担を少しでも減らすことができたと思います。最初は険しい表情だった患者さんとそのご家族の方が、私が通訳することで安心することができたのは本当に嬉しく良い経験でした。





一日に一度も外国人の姿を見なかった。という日がほとんどない最近の風景。つい、こんな気持ちになります。

MICちゃん 12
（心の声）
「スカウトした～い！」

❀❀❀❀❀ 2018年度活動ご支援へのお礼 ❀❀❀❀❀

2018年度も会員の皆さまをはじめ多くの方々のご支援ご協力のおかげで活動を続けることができました。感謝の意を込め、2018年度（2018/4/1～2019/3/31）にご寄付をいただいた方々のお名前を掲載いたします。（50音順、敬称は省略します）

。

＜企業・団体＞

一般財団法人ザ・ブラフクリニック、公益財団法人パブリックリソース財団、NPO法人ふじみの国際交流センター、みなとまち健康互助会（MF-MASH）

＜個人＞

渥美昇平、井出みはる、岩本弥生、梅原裕恵、奥本彬、小野悠一、川崎圭子、佐藤ペティー、佐野知子、清水秋惠、鈴木法子、鈴木万里子、竹田千尋、鶴田光子、西垣幸代、早川寛、平川英子、細野紀代子、宮澤イザベル、森内啓子、矢島健、その他匿名での寄付や募金もいただきました。
川崎圭子さんからいただいた種々記念切手は目にも楽しく事務局発送業務に遠慮なく使わせていただきました。

＜MIC かながわイベント隊＞

MIC手芸部バザー実行委員会

＜賛助会費（寄付とみなされています）＞

個人賛助会員　178 人、　団体賛助会員　団体　6団体（48 口）

皆さまの温かいお気持ちに心から感謝しお礼申し上げます。いただいた寄付は活動に役立つよう大切に使わせていただきます。

今後も末永くご支援ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

MIC かながわは認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）です。
寄付は所得税の寄付金控除、または税額控除、いずれか有利な方の適用を受けることができます。
また、神奈川県にお住まいの方は個人県民税の寄付金控除の適用も受けることができます。
会員はいつでも募集しています。ぜひ会員になって私たちの活動を支えてください。

2019年度の会費をお願いします。
会費は 4 月から翌年3 月までの年度会費です。

●新規会員・継続会員の方
正会員：6,000 円
個人賛助会員：1 口　3,000 円
団体賛助会員：1 口 10,000 円
（賛助会費は寄付扱いとなります）

【会費振込先】
みずほ銀行　横浜駅前支店
普通3819349
口座名義：特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ

ゆうちょ銀行
口座：00270－2－55771
口座名称：MIC かながわ

● 活動報告 ●

4 月 1 日(月)　神奈川新聞取材　対応：岩元副理事長・Co.・英語通訳
4 月 4 日(木)　医療通訳公開講座【中国語】中級講座開講
4 月 17 日(水)　MIC かながわ理事会
4 月 18 日(木)　日本経済新聞取材　対応：松野理事長、黛中国語通訳
4 月 23 日(火)　日本経済新聞取材　対応：倉橋タガログ語通訳
4 月 24 日(水)　コーディネーター会議
5 月 10 日(金)　シルバー新報取材　対応：松野理事長、宮嶋タガログ語通訳
5 月 17 日(金)　MIC かながわ理事会
5 月 19 日(日)　外国人無料健康相談会　於:カトリック貝塚教会(川崎市)
5 月 20 日(月)　医療通訳公開講座【英語】基礎講座夜クラス開講
5 月 21 日(火)　第 1 回一般通訳協力者研修
5 月 22 日(水)　医療通訳公開講座【英語】基礎講座午前クラス開講
5 月 27 日(月)　コーディネーター会議
6 月 1 日(土)　MIC かながわ総会・交流会
6 月 4 日(火)　神奈川県消防学校専科教育救急科(第 1 回)教育訓練　講師派遣：星中国語通訳、ヒューバート会員(英語)、バルガス事務局スタッフ(スペイン語)
6 月 20 日(木)　医療通訳公開講座【中国語】上級講座開講
6 月 21 日(金)　MIC かながわ理事会
6 月 25 日(火)　千葉大学医学部附属病院「通訳サポーター講習会 第 1 回 中国語」講師派遣：佐藤理事・中国語通訳
6 月 26 日(水)　椙山女学園大学国際コミュニケーション学部「異文化トレーニング：理論と実践」講師派遣：岩元副理事長・Co.・英語通訳
6 月 26 日(水)　コーディネーター会議
6 月 29 日(土)　國學院大學研修開発推進機構日本文化研究所／宗教文化教育推進センター「宗教文化についてのワークショップ」講師派遣：岩元副理事長・Co.・英語通訳
7 月 8 日(月)　横浜ラポール　手話通訳者専門研修「手話通訳者専門研修：医療現場での通訳の心構えと判断・処理能力のスキル習得」講師派遣：岩元副理事長・Co.・英語通訳
7 月 6 日(土)　第 1 回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修
7 月 11 日(木)　都立松沢病院見学会
7 月 23 日(火)　MIC かながわ理事会
7 月 27 日(土)　群馬県外国人活躍推進課「医療通訳ボランティアスキルアップ講座」講師派遣：佐藤理事・中国語通訳
7 月 30 日(火)　コーディネーター会議

● 活動予定 ●

8 月 23 日(金)　医療通訳ボランティア養成研修事前選考(中国語)
8 月 27 日(火)　医療通訳ボランティア養成研修事前選考(英語)
9 月 19 日(木)　医療通訳ボランティア養成研修第 1 日目
9 月 22 日(日)　群馬県外国人活躍推進課「医療通訳ボランティア養成講座」講師派遣：鈴木万里子英語通訳
9 月 22 日(日)　外国人無料健康相談会　於:カトリック大和教会(大和市)
9 月 27 日(金)　医療通訳ボランティア養成研修第 2 日目
9 月 29 日(日)　群馬県外国人活躍推進課「医療通訳ボランティア養成講座」講師派遣：鈴木万里子英語通訳
10 月 5 日(土)　医療通訳ボランティア養成研修第 3 日目
10 月 6 日(日)　群馬県外国人活躍推進課「医療通訳ボランティア養成講座」講師派遣：鈴木万里子英語通訳
10 月 19 日(土)　医療通訳ボランティア養成研修第 4 日目
10 月 11 日(金)　神奈川県立国際言語文化アカデミア「生活支援と日本語」講座「医療通訳と外国人の健康」講師派遣：草間理事・Co.・中国語通訳
11 月 16 日(土)　第 2 回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修

MICのイベント(報告)

●外国人無料健康相談会

日時：5月19日(日)
場所：カトリック貝塚教会（川崎市川崎区）
内容：胸部レントゲン、身体測定、血圧測定、尿検査、歯科健診、医師による診察
受診者：50人(国籍7か国)
通訳派遣：5人（ベトナム語2人（うち1人は電話待機）、タガログ語、英語、中国語）

●第1回一般通訳協力者研修

日時：5月21日(火)　9：45～12：15
場所：かながわ県民センター　305研修室
テーマ：①コミュニティ通訳の基礎　講師： MICかながわ理事・Co.・ポルトガル語通訳　岩本弥生
②体験談　③保護者面談のロールプレイ
参加者：21名(中国語、タガログ語、スペイン語、フランス語、カンボジア語、韓国・朝鮮語)

あまり通訳の経験がない方を対象とし、6言語計21名の方が参加しました。毎年6月には県立高校や養護学校から三者面談･保護者面談の通訳依頼がたくさん来ます。その依頼に対応するため、今回初めて5月に開催しました。

はじめはMICかながわのポルトガル語通訳スタッフで通訳コーディネーターの岩本弥生による「通訳の基礎」について、コミュニティ通訳として必要な心得や基本的な技術を具体的な例を交えて講義がありました。

次にMICかながわのタイ語通訳スタッフで通訳コーディネーターの内藤まゆみから高校、養護学校、児童相談所での通訳の体験談や注意点などの話がありました。

後半は、言語ごとのグループに分かれて、ロールプレイを行いました。高校の保護者面談での会話をシナリオにして、先生役と外国語母語話者の保護者役を配し、参加者に順番に通訳をしてもらいました。初めての体験で緊張している方も多くいましたが、皆さん上手で、未登録の方全員に一般通訳協力者として登録していただきました。

●MICかながわ定期総会＆交流会

日時：6月1日(土)　13：30～総会　15：30～交流会
場所：港湾労働者福祉センター（港町診療所2F）
正会員人数：65人（定足数33人）
直接参加：26人、委任状：5人、書面表決17人　計48人

前年度事業報告・決算、今年度事業計画・予算、役員の選任についての議案はすべて承認されました。

2018年度は医療以外の一般通訳の派遣も前年度より増えました。医療通訳やコミュニティ通訳の研修会への講師派遣要請も多く、マスコミからの取材も増えました。全体としてたいへん忙しい1年でした。

総会では、財政状況についての質問や会員増についての要望など、会員から活発な発言が続き、時間を超過するほどでした。

総会後には交流会が行われました。協定している医療機関からも数人の参加がありました。ふだんゆっくりお話しすることができないので、このような機会においでいただけるのはとてもうれしいことです。参加者が持ち寄った各国の料理を食べながら懇談し、またゲームでも盛り上がって、楽しい交流の時間となりました。

MIC では正会員、賛助会員ともに随時募集をしています。どなたでも会員になることができます。会員となって MIC の活動を支えてください。そして来年の総会に、ぜひご参加ください。

●第1回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修

日時：7 月 6 日(土)13：15～16：45
場所：神奈川県立国際言語文化アカデミア 1F ホール
内容：
1. 「血液のがん～小児医療現場でのコミュニケーション～」
　講師：県立こども医療センター
　　血液・腫瘍内科　横須賀とも子先生
2. 医療通訳活動で共有したいこと
3. 事務局からのお知らせ

講義「血液のがん～小児医療現場でのコミュニケーション～」を聴いて

小児がんは主に白血病、神経芽腫や腎芽腫などの固形腫瘍（胎児の時に残った細胞ががん化するので芽腫と言われる）、脳腫瘍などがあります。小児がんは小児人口10 万人に 10 人発生する希少性から世の中ではあまり知られていません。大人と違い発見がどんなに早くてもすでにステージ４ということも多く、転移もしやすいとのこと。しかし治療の反応性も早いとのことでした。

白血病になると、正常な血液が作れなくなる、また白血病細胞が臓器に広がることから、初期症状として、骨が痛むため歩きたがらなかったり、たまに会った祖母に顔色が悪いと指摘されてわかることがあるそうです。

小児がん経験者には臓器機能への影響、成長・発達への影響など様々な晩期合併症が出る可能性もありますが、他の人がしていない辛い経験をしたことで精神面での大きな成長もあるとのことでした。

医療的コミュニケーションとしては、命に関わるようなことを告げられた場合、心理的反応として、ショック、否認（こんなこと起こるはずがない）、怒り（なんで私が）、取引き（悪いことは直すから）、抑うつ（気分の落ち込み）のあと、受け入れるという段階を通るといわれます。

悪い知らせを伝えるスキルとしては、面談環境の設定、例えば対面でなく隣に座るなどします。

伝える相手がどの程度病 状 を理解しているかを把握, またどこまで知りたいかも確認し、相手の反応によっては、白血病の診断と治療の 話 は別の日にすることもあります。相手が理解できるように専門用語は避け、確認しながら、オープンクエスチョン（自由に発言できる質問のしかた）を使います。またできるだけ否定的な言葉も避けます。最終的には子どもにとって何が大切かを 考 え話し合って具体的な目 標 を示すということでした。

通訳が必要となるのは病気の再発など悪いことを伝えるときが多いのですが、どんな 状 況 でも、相手にわかる表 現 で、きちんと理解していることを確認しながら、過不足なく情 報 を伝えることはもちろんのこと、共 感 を示す医師と同じように、できる範囲で場を作ることに 協 力 することも大切だと感じました。

子どもに病 名 を伝えるか否かも、アメリカでは子どもの権利として伝えるが、日本ではまだ少ないとのこと。しかし偶発的に知られると不信感を抱き、今後の辛い治療を受けることも 難 しくなるのでできるだけ子どもが納得できるように取り組むことが重 要 なようです。これから先の社会では子どもへの告知も増えていくのでしょう。

緩和ケアというとある程度病 状 が進んだ段階で受けると思っていたのですが、小児緩和ケアは診断された時から始まり、痛みや吐き気など苦痛を和らげるケアを治療と並行して 行 われます。子ども達が抱える苦痛には身体的苦痛のみならず、精神的、社会的苦痛、将 来 への不安などがあり、緩和ケア普及室では医師、看護師だけでなく様々な専門 職 の多職種によるサポートを 行 っているとのことでした。

●研修後の参加者アンケート（ 心 に残ったこと。ためになったこと）の一部をご紹 介 します●

＜血液のがん～小児医療現場でのコミュニケーション～＞

■悪い知らせを伝える時の skill(SPIKES)とても勉 強 になりました。と同時に厳しさが想像でき、辛い場面につきそうことの大切さ感じました。日本ももっと子どもに真実を伝えるべきという 考 えに同意します。ぜひ子どもにも真実を伝えられる環 境 ＋skill が日本でも 整 うことを期待します。

■血液がんの特 徴 や小児がんと成人がんの主な違う点などを改 め て 認識でき、子どもたちが抱える苦痛にどう向き合うか、子どもが納得して治療を受けるために、こころのケアなどは大変勉 強 になりました。

■伝えることは医療現場では大事というのがわかるが、そのスキルに関しては研 修 を受けたことはないので、 話 を聞いてとてもよかった。今後通訳のみならず活かしたいと思う。

■医療の現場でのコミュニケーションに重 要 な役割を果している犬（ファシリティードッグ）の存在。重い病気の幼 い 子どもにその状 態 を嘘をつかずに伝えることのむずかしさ。保護者の実 情 の理解の度合いとそのケアの必要性。

■小児のがんは、小児であることと、 命 にかかわる可能性があるということで、二重にむずかしい、と感じました。先生方が患者やその親との 話 では特別に気を配りながらお 話 されていることがわかり、通訳の際にも注意していきたいと思います。

■小児がんは治療の反応性が良いことなど、知らなかったこともたくさんあり勉 強 になった。子ども本人への告知、緩和ケアの概念など認識や 考 え方が一致していない場合の通訳はとても 難 しいと思った。

■子どもに「治らない」とは言えない、というお 話 から、通訳は「たさない・ひかない」だけれど、患者さんやその家族を傷つけないような表 現 など伝え方で気をつけないといけないと感じました。

■子どもの場合、言葉では言わない 心 の叫びも感じ取ることが大事だと思いました。

■通訳の基本を守りつつ医療従事者と患者さんとその家族からいかに早く現場で信頼を得られること

が大切であるかを再認識した。

■言葉のチョイス。例）本日の「完治」と「寛解」。
患者さんから“治りますか”と言われたら ①元気になるか　②今の状況から少しは良くなるのか、どこを探っているのか判断が難しい。

■病気のことはもちろん、新しい治療。病院での実際の運用。先生のご見解も取り入れた素晴らしい講義だった。

●第 3 回都立松沢病院見学会

日時：7 月 11 日(木)　　参加者：医療通訳スタッフ 15 名、事務局スタッフ 1 名

松沢病院は精神科を中心とした歴史のある病院です。都立病院ではありますが、MIC かながわは医療通訳を派遣する協定を結んでおり、昨年度は 25件の通訳派遣を行いました。

医師の講義では、松沢病院で通訳を依頼するタイミング、精神科における医療通訳の専門性などについてのお話がありました。「通訳を依頼してマイナスになったと思ったことは一度もない。いつも助かっている」という言葉に力づけられました。

精神科の通訳は難しく、このような機会を毎年設けてくださっている松沢病院に感謝しています。

MICのイベント(案内)

●2018年度医療通訳ボランティア募集

今年度の医療通訳ボランティアを募集中です。『かながわ県のたより』7月号に公募の案内が掲載され、詳細は MIC かながわホームページで見ることができます。

募集言語：ネパール語、ベトナム語、タガログ語、中国語、英語　　5 言語
募集期間：6 月 25 日(月) ～7 月 31 日(火)　中国語・英語以外の言語は 8 月 16 日（金）まで。
受講料：　6,000 円
応募方法：MIC かながわホームページから応募用紙をダウンロードし、必要事項を入力後、MIC かながわ事務局に郵送、メール添付送信または FAX にて送付。

お願い！　応募の前に、必ず募集要項をお読みください。

全言語で書類選考を行います。中国語と英語については書類選考後、面接選考も行います。書類選考および面接選考を通過した人が、9 月開講の養成研修（全 4 回）に参加することができます。

(1) 医療通訳ボランティア養成研修　9 月 19 日(木)　　第 1 回　講義
(2) 医療通訳ボランティア養成研修　9 月 27 日(金)　　第 2 回　講義・筆記テスト
(3) 医療通訳ボランティア養成研修　10 月 5 日(土)　※第 3 回　通訳実技
(4) 医療通訳ボランティア養成研修　10 月 19 日(土) ※第 4 回　通訳実技・**選考**

※第 3 回・第 4 回は、言語により研修時間が異なります。

＜注意＞　全4 回の研修受講後に選考があります。医療通訳スタッフとして適性があると判断され、一定基準を満たし選考を通過した方が神奈川県の医療通訳派遣システムの医療通訳スタッフとして登録されます。

●外国人無料健康相談会

日時：9 月 22 日(日)　12：00～15：00
場所：カトリック大和教会（大和市）
内容：胸部レントゲン、身体測定、血圧測定、尿検査、医師による診察

●第 2 回医療通訳スタッフ･コーディネーター現任者研修

日時：11 月 16 日(土)　午後
内容：感染症、その他

言語別自主勉強会情報（報告）　2019 年 4 月～7 月開催分

言語グループ	日　時	会　場	内　容
中国語	4 月 6 日(土) 13：30～16：30	かながわ県民センター	メモとり練習／講義：腎臓病と人工透析 講師：酒井悦美子氏
	6 月 15 日(土) 13：30～17：00	かながわ県民センター	クイックレスポンス／ロールプレイ／グループワーク
スペイン語	4 月 20 日(土) 13：30～14：50	かながわ県民センター	事例検討／今後の勉強会について
	5 月 18 日(土) 13：30～15：30	かながわ県民センター	東京におけるスペイン語患者に対する医療通訳の評価　講師：エリサベス・チョケ氏
	6 月 22 日(土) 13：30～15：30	かながわ県民センター	通訳トレーニング（耳鼻咽喉科）／用語の確認／事例検討
ポルトガル語	5 月 12 日(土) 13：00～16：00	かながわ県民センター	左心定型性症候群について／場面における用語理解と通訳表現の確認／事例検討
	6 月 30 日(日) 13：00～16：30	かながわ県民センター	事例検討／副鼻腔炎・尿路結石用語理解と通訳表現の確認　講師：奥澤セヴェラ氏
韓国・朝鮮語	6 月 7 日(金) 13：00～15：30	かながわ県民センター	皮膚科（関節症性乾癬）／脳神経外科／専門用語と日本語特有な言い回しに対する通訳練習
タイ語	6 月 23 日(日) 13：30～16：00	MIC かながわ事務所	末期がん患者への通訳表現／事例検討
英語	5 月 26 日(日) 13：00～16：30	横浜市西区福祉保健活動拠点フクシア	血液内科の全般的な説明(骨髄性白血病、鎌形赤血球症、造血幹細胞移植、ATL）／ロールプレイ
	7 月 28 日（日） 13：00～16：30	横浜市西区福祉保健活動拠点フクシア	眼科（目の構造、眼科検査、斜視、静脈閉塞症）／ロールプレイ
ベトナム語	7 月 6 日(土) 10：00～12：30	国際言語文化アカデミア研修室	ロールプレイ（産婦人科）
フランス語	5 月 30 日(木) 13：00～15：00	かながわ県民センター	フランス語母語講師より、カンガルーケア、パーキンソン病に関する仏語訳を学ぶ 講師：畠山コリン氏

手芸部だより

夏本番を迎えましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。手芸部では「エコ(eco)=環境に優しい」をテーマに、3月にエコたわし、4月に手ぬぐいであずま袋、5月にエコピンクッション、6月に残った刺繍糸でタッセルを作りました。

あずま袋の発祥は江戸時代といわれ、物を持ち運ぶ時、それまでは風呂敷から、簡便な西洋のバッグに移行していく過渡期に、バッグを参考としてあずま袋が作られたようです。

サイズによってお弁当袋やかごバッグの内袋としても使え、使わない時は平らで小さく折りたためるのでエコバッグとしても使え、何枚あっても重宝します。

先人たちは風呂敷や手ぬぐい、着古した着物などを利用して作ったそうです。庶民の知恵であり、エコですね。

物を大切にする精神も学び、7月は「手ぬぐいの端切れで小物作り」のアイディアを出し合いました。宿題で持ち帰ったものもあり、8月は10月のバザーの準備も兼ねて、その続きです。日程は別途お知らせいたします。新しいアイディアもお待ちしております。

では、暑さに負けぬよう体調管理に気をつけて夏を乗り切りましょう。(K記)

手芸部一同

事務局からのお知らせとお願い

～経費節減にご協力のお願い～

今後、MICからのお知らせはEメールのみでかまわないという方で、その旨まだご連絡いただいていない方は、お手数ですが事務局までご一報願います。

～書き損じハガキを寄付してください～

もし、ご家庭に書き損じ郵便ハガキや未使用切手が眠っていましたら、ご寄付をお願いします。事務所にお送りいただくか、研修等でお会いできる機会があれば事務局スタッフにお渡しください。事務局での業務に利用させていただきます。ご協力よろしくお願いします。

MICかながわ理事会新体制の紹介

今年度は役員改選の年であり、6月1日の定期総会で新役員が承認されました。その後、7月の理事会にて互選により下記の体制で臨むことが決まりました。

理事長	松野勝民
副理事長	早川寛
副理事長	岩元陽子
理事	沢田貴志
理事	佐藤ペティー
理事	井出みはる
理事	岩本弥生
理事	草間久美（新任）
監事	高橋元央
監事	鈴木クリスチーナ美幸（新任）

任期は2019年7月1日から2021年6月30日です。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

ことばで支える　いのちとくらし

MIC かながわは Twitter や Facebook で情報を発信しています。

Twitter のアカウント

@MIC_Kanagawa

Facebookページ
www.facebook.com/Mickanagawa

Twitter や Facebook にアカウントをお持ちの方は、MIC かながわの活動や情報がより多くの方に伝わるよう、ご協力をお願いします。

編集後記

◆最近、仕事で認知症の方との関わり方を学びました。街中で気になる人を見つけたら、正面から、ゆっくり話しかける、短く区切って話す、などなど。認知症じゃなくても、そんなふうに優しく対応してもらったら嬉しいな、なんて思いました。認知症サポーターが増えたら、自然と優しい世の中になるかも？（M.K）

◆今年の梅雨はあまりにも長く、肌寒い日が続いた。鬱々とした日々に、暑くてもいいから青空が見たいとどれほど思ったことか。今日は久々に晴れた。しかし混んだ電車は蒸し暑く息もできない。あの涼しさが恋しい！人はないものを求めるわがままな生き物なのだとつくづく思う。（M.R）

◆40年ぶりに自分自身がベッドに横たわる患者になりました。元気なときは一日がすごく短く感じたのに、ベッドの上で過ごすと一日がなんと長いことか…。入院した病院では中国人の看護師さんが数人テキパキと働いていました。清掃スタッフにはカンボジア人の若い女性もいました。そういう時代ですね。　（N.M）

Multi-language Information Center

MICかながわ
特定非営利活動法人
多言語社会リソースかながわ
発行人　松野勝民
編集・発行　MIC かながわ事務局

〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2
かながわ県民センター内

Tel：045－314-3368
Fax：045－342-7918
e-mail : mickanagawa@network.email.ne.jp
URL : http://mickanagawa.web.fc2.com/